



# 植柳の風

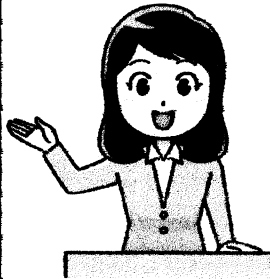
八代市立植柳小学校 校長室便り  
平成29年4月17日NO. 47

## 見盗りのすすめ

「幼いころから夢に見ていた教職の道。この1週間は、本当に慌ただしい毎日でしたが、とても充実していました。これから、先輩の先生たちからいろいろな学びながら、一生懸命 頑張ります。」  
「長く臨探をしていましたので、ベテランのように思われますが、また新たな気持ちで頑張りたいと思います。」  
「子どもたちが『先生』と呼んでくれることが嬉しいです。これから初めての地である八代で授業や休み時間に触れ合いの機会を多くするよう心掛け、私自身が笑顔を心がけながら 取り組んでいきたいと思っています。」



14日(金)、午後3時45分、平成29年度に八代市で新規採用教職員としてスタートされた先生たちの宣誓式に出席した。最初に学校名と氏名が読み上げられると、「ハイ」と大きな声で返事をして起立。教育委員会の委員さんたちもずらりと居並ぶ事務局・関係学校校長の面々もその元気の良い返事に圧倒されていた(少なくとも私は)。上記のように、36人の新規採用者が一人ずつ述べた力強い宣誓に、新進気鋭の心意気を頼もしく感じた宣誓式だった。



本校の西村先生も堂々とした態度で、自分の教師としての抱負を発表。「今日は、自己紹介の挨拶がありますよ。」「えー、そうなんですか？じゃあ車の中で考えていきます！」と笑顔で職員室を後にしたときは一抹の不安もあった(?)が、いやいやどうしてどうして。さすがであった。

北岡教育長からの挨拶では、着任した新任の先生たちを歓迎する言葉とともに、期待を込めてご自身の経験の中から次のような話をされた。「私は、若いころ、上司や先輩たちからたくさん教えていただいたが、それだけではだめだと言われました。あまりいい言葉ではないかもしれませんが、『盗む』ことが大切だと。学校にはベテランの先生、管理職の先生、いろいろな個性あふれる先生たちがいらっしやいます。その先生たちのいいところをいい意味で盗んでください。授業での指導法をはじめ、子どもとや保護者の接し方などなど、教えてもらうだけでなく、いいところを盗み、取り入れ、実践することで先生方は教師として大きく成長することができるのです。」

北岡教育長は、実は高校剣道部の大先輩であるが、よく武道の世界の言葉をご挨拶の中で触れられる。初任者向けに語られたこの「盗む」という言葉は、剣道では、「見取り(盗り)稽古」と呼んでいる。他人の稽古や試合を見ながら、ただ見るのではなく、打突のタイミングや呼吸、間合いなど、優れた点を見つけ、そこから学ぶ稽古のことである。このことは武道だけでなく、職人の世界でも師匠が一人から丁寧に教え込まれるのではなく、師匠の巧みな技を自分で見て学ぶ、盗むということが行われている。だから、そういった「眼」を持つことが大切で、宮本武蔵は五輪書の中で「目には観の目と見の目があるが、観の目を強くし、見の目は弱くする。」と述べている。これは、相手の動きを「目」で見えて行動を起こすのではなく、「観の眼」つまり「心の眼」で相手の動きや心理を良く見ることが大事だという意味である。またこのことは、新任の先生たちだけでなく、ベテラン教師にも同様のことがいえると思う。そういえば、子どもたちも体育で病気やケガで見学をすることがあるが、これも「見て学ぶ」という意味が込められている。

